

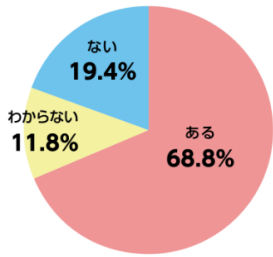
『防災意識を高めてもらうために』

鹿本高校1年

1,要旨

山鹿市民の防災意識向上を目的として、山鹿市民の防災意識の高さについて調査しそれを元にして、どうやって防災意識を高めるのか実際の取り組みを考えた。資料を見ると防災対策に取り組んだことがある人が全体の68%で、ないと答えた人が19%であった。この19%をなくすために私達は今の防災意識の低い理由を明確にした上で自分の家でやってみたりして解決方法を考えた。

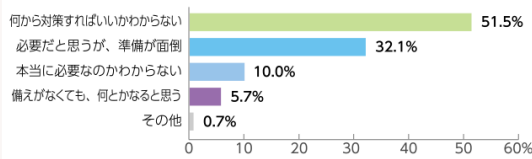
Q2 自宅で防災・減災対策に取り組んでいることはありますか？



引用:みんなの防災アンケート2022

2,背景・目的

Q4 Q2で「わからない」「ない」と答えた方にお聞きします。家庭での対策について、あなた自身の考えに最も近いものをお選びください。



引用:みんなの防災アンケート2022

Q2で防災・減災対策に取り組んでいないと答えた人の多くは何から対策すればいいかわからない、と答えている。次に、必要だと思うが、準備が面倒と答えている人が多い。そのため、誰でも行いやすい簡単な対策を講じることで、上記の理由で対策を行っていなかった人の防災意識を高める。

ドマップを使うという私達の意見はしっかり効果が あったということも言えるだろう。

3,研究方法

私達は時間の都合上実際に取り組みを行う事はできなかったが、防災意識を高めるためにまず、全校生徒にアンケートをとり高校生の防災意識の高さを調べ それを本にして防災意識を高めるための取り組みを行う。1つ目の手段として山鹿市防災マップを紹介して地元の危険な場所を把握してもらい意識を高める方法。2つ目の手段は、

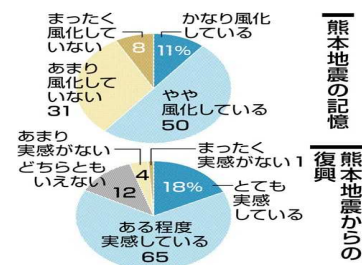
各家庭で食料や防災グッズの準備の呼びかけを行い家庭で簡単にできる防災対策のよびかけを行う。この取り組みを行い、もう一度防災意識のアンケート調査を行う。

4,結果・考察

時間の都合上、アンケート調査を行うことはできなかったため、防災意識についての文献調査をもとに考察する。今回は2016年4月に発生した熊本地震の発生に伴い、防災意識の変化はあったのか調査したところ、熊本地震が発生する前は災害について深く考えていなかった人が多く、実際に災害にあつてことで、防災意識の薄さを実感した人を多数確認することができた。「思った以上に恐怖心で落ち着いた行動がとれなかった」「もしもという意識を持ち、避難道具を用意するようになった」「なにか起きたときの家族での居場所の確認について話し合うようになった」など実際に災害が起きてから防災意識が高まったようだ。

5,結論と今後の展望

今回の研究によって、防災意識を高めてもらうために何を行えばよいかを研究できた。しかし、アンケート調査など実際に鹿本高校生を巻き込んでの活動はできなかった。文献調査により、実際に災害が起きたときの心構えについてや、災害が起きる前と後の防災意識の変化など、これから私達が生きていく中で、役立つ情報をしっかり調査することができた。さらに熊本地震が起きる前から作成されていたハザードマップに熊本地震の被害範囲、避難場所がしっかり、掲載されていたということから、防災意識を高めるためにハザードマップを使うという私達の意見はしっかり効果が あったということも言えるだろう。熊本地震から今年で7年になる。熊本地震で防災意識が高まった人が多いのは事実だが、記憶が風化しているのも事実。熊本地震という地元で起きた災害を忘れず、これからの防災に努めていきたい。



引用:熊本日日新聞

6,参考文献

- <https://machico.mu/special/detail/2045>
- <https://kumanichi.com/news/id182559>
- http://harmony-mimoza.org/aboutus/report/docs/iishin_ikuji_report.pdf